

市文化スポーツ振興財団



針と糸を使い、古くなったボールを丁寧に縫い直す山本篤司さん

野球硬球直し高校に還元

帯広市文化スポーツ振興財団(金沢耿理事長)は昨秋から、十勝管内の高校野球部で糸がほつれるなどとして古くなった硬式球を回収。縫い直して練習球として各校に還

元する事業に取り組んでいる。作業を市内の福祉事業所に委託し、障害者の自立支援にもつなげる狙い。道高野連によると、道内10支部で初めての試みという。(斉藤徹)

高校球児たちに道具を長く、大切に使うしてほしいと発案した。昨年10月、道高野連十勝支部に呼び掛け、管内11校から廃棄予定のボール1200個を集めた。障害者の就労を支援している市内の「御用聞き屋べんぞう商店」に、修理を1個50円で委託。店員ら6人がハサミや縫い針で糸を全てほどこき、赤い糸を再び縫い目に合わせて縫いつける。
2、3日に1個のペースで仕上げる山本篤司さん(51)は元高校球

福祉事業所に委託 自立支援も後押し

児。慣れるまでは指を傷めたり、縫い方を間違えて、何度も最初からやり直したという。山本さんは「僕たちが直したボールで高校生が甲子園を目指し、練習に取り組むのは素晴らしい」と話す。
財団はこれまでに修繕を終えたボール500個を十勝支部に寄贈。9月12日に開幕する秋季高校野球十勝支部予選で4校に120球ずつ配る。その後も順次、各校に配布する予定。
道高野連によると、練習球はメーカーによって価格が異なり、1個300〜700円。同事務局は「部にとって、最も経済的に負担が大きいのはボール代。地域貢献を組み合わせる十勝支部の取り組みは画期的」と評価する。十勝支部の福井誠支部長は「丁寧に直していただいた。選手たちに大切に使うよう伝えたい」と話している。